

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 27 年 08 月 13 日	
所属部局・職	霊長類研究所・修士学生
氏名	戸田和弥

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
コンゴ民主共和国
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
野生ボノボのメスの移籍要因
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 27 年 06 月 23 日 ~ 平成 27 年 08 月 03 日 (41 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
京都大学、古市剛史教授、WCBR
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
(調査概要) チンパンジー属のボノボは、多くの哺乳類と異なり父系型社会(メスが集団間を移籍し、オスが集団に残留する)を形成する。メスの移籍要因の理解は、父系型社会を紐解くうえで不可欠であり、類人猿における父系型社会の進化的起源に大きな見通しを与えるだろう。申請者は、メス個体の性・社会的な成熟過程はメスの移籍要因を示唆すると考え、未成熟個体の社会関係および性ホルモン動態の通時的な調査を行う。 本研究は、野生ボノボの調査地であるコンゴ民主共和国ワンバ村にて行う。研究対象となる集団の個体は、すべて識別されており、十分に人に馴れているため、個体追跡による行動観察が可能である。また、長期調査地であるため、個体の出自情報、血縁関係などの情報が蓄積されており、本研究の遂行にとって適切な環境である。
(調査目的) 今期間の調査目的は、未成熟個体を対象とした行動観察および尿サンプルの収集に努め、その後の社会関係の分析および性ホルモン動態の解析の基盤を形成する。
(調査状況) 森に数種の果実が結実している今期間において、ボノボ集団のパーティサイズは大きく、集団に属するすべての個体が毎日観察された。筆者は、未成熟メス個体の行動を個体追跡法により記録するほか、グルーミングや性器こすり、攻撃交渉等の社会交渉をアドリブ法で記録した。また、対象個体が尿を排泄した時には、そのサンプリングを行った。しかしながら、現段階のデータ数は十分ではないので、再調査を行う必要がある。 今回の調査では、E1-group だけでなく、その隣接群である Pe-group の未成熟個体も

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

対象に加えてデータ収集を試みた。隣接群の個体も研究対象とすることで、対象個体のサンプル数を増やすというだけでなく、集団間のお会いにおける観察を可能にするほか、集団を渡るメスの動態のより広い範囲での記録が期待できる。

倒木に腰かけて休むボノボたち



食用の虫を採集に行く途中でボノボに出会った現地の子供たち



6. その他 (特記事項など)

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

筆者は PWS リーディングプログラムに支援を受けて、今回の調査を実施することが出来ました。調査地で指導して下さった古市先生、ともに調査に励んだ五明さん、石塚さん、横塚さん、古島さんに大変お世話になりました、誠にありがとうございます。また、調査生活を支えてくれたコンゴ民主共和国ワンバ村の皆様に厚くお礼申し上げます。